

施策名：農林水産研究推進事業

農林水産省農林水産技術会議事務局
研究企画課 03-3501-4609

分野	農林水産業分野での未来技術の活用	総合戦略該当箇所	横2-1-(2)-iv	予算額	令和3年度当初一般会計 2,150百万円
-----------	------------------	-----------------	-------------	------------	-------------------------

特徴・ポイント

- ✓ 農林水産業・食品産業の持続性を高めるため、農林漁業者等のニーズ、気候変動といった新たな課題、バイオ技術を活用したイノベーション創出等に対応する研究開発を国主導で推進。
- ✓ また、研究成果の社会実装に向け、国際標準化を見据えた知財マネジメント等の研究開発環境の整備を実施。

目的

農林水産業・食品産業の持続性を高めるため、農林漁業者等のニーズを踏まえた研究開発を国が主導して効果的に推進するとともに、知的財産マネジメントの強化等の環境整備を一体的に実施し、研究成果の社会実装を効果的に進めることを目的としている。

概要

＜研究開発＞
①現場ニーズ対応型研究、②革新的環境研究、
③アグリバイオ研究、④人工知能未来農業創造研究

＜環境整備＞
①知財マネジメント強化、②海外・異分野動向調査、
③アウトリーチ活動強化

＜期待される効果＞

- ・ 重要課題に対応する技術を開発し、農林漁業者等がその開発された技術の実践
- ・ 海外・異分野の技術開発動向を踏まえた研究開発と効果的な知財マネジメントにより、農林水産業・食品産業にイノベーションを創出



＜対象事業のイメージ＞

研究開発

現場ニーズ対応型研究

農林漁業者等のニーズを踏まえ、実装までを視野に入れた研究開発を推進
(例)

濃厚飼料の安定貯蔵・供給システム、イネ科強害雑草防除技術等の開発

アグリバイオ研究

日本の農産物の免疫機能等への効果検証や、ゲノム情報等を活用した新たな育種技術の開発等を推進
(例)

免疫機能への効果が期待される日本の農産物のエビデンスを取得

革新的環境研究

地域の特性に応じた最適な気候変動緩和等の技術や、林木の効率的育種技術の開発等を推進
(例)

GHG削減と農業生産等が両立する最適な技術を確立

人工知能未来農業創造研究

人工知能(AI)やIoT等を活用した病害虫早期診断技術等の開発を推進
(例)

AIを活用した早期診断、リスク分析による防除対策情報の提供

環境整備

知財マネジメント強化

知財マネジメントの高度化のため、国際標準化を含む知財相談対応、マニュアル整備等を実施

専門家による相談対応やマニュアル整備

海外・異分野動向調査

海外・異分野の最新の研究開発動向調査やシンポジウムを実施

宇宙分野も含む最先端技術の動向を調査

アウトリーチ活動強化

ゲノム編集技術等の社会実装に向けた双方向コミュニケーション等を実施

ゲノム編集技術等を用いた研究開発
ベネフィット
出前授業、個別訪問等
専門家
大学等 食品業界等
専門家によるアウトリーチ活動



詳細